論 文 審 査 の 要 旨	
筆頭著者（学位申請者）氏名	岩端　由里子
主論文の題目 および 掲載・審査委員	題　目 Investigation of Fertility Preservation Education Videos for Pediatric Patients Based on International and Historical Survey (国際的実態調査に基づく小児患者向けの妊孕性温存療法の教育動画の調査)
	掲載誌 Journal of Adolescent and Young Adult Oncology 2023 ; (in press)
	主査　津川　浩一郎 副査　宮本　雄策 副査　大島　久美

［論文の要旨・価値］【目的】近年、小児患者へのがん告知は増加傾向にあるとされるが、がん治療による性腺毒性リスク（将来の不妊など）に関する情報提供についてはほとんど知られていない。本研究では、小児・思春期患者に対するがん告知の実態、さらに性腺毒性に関する情報提供の現状を把握するために、日本と米国の異文化間での実態調査を行った。その結果をもとに本邦における妊孕性温存療法に関する教育資材の開発を行った。【対象と方法】2019 年 7 月に日本小児血液・がん学会、2020 年 7 月に米国小児血液学・がん学会の会員を対象にオンラインアンケート調査を実施した。患者の年齢別に「がん告知を行っているか」、「がん治療前に性腺毒性リスクに関して情報提供を行っているか」について調査を行った。その結果をもとに、三種類の教育動画（幼少期向け(A),(B)、および思春期向け）を開発した。次にこれらの動画が実地臨床に適しているかどうかを評価するために医療従事者を対象にオンラインアンケート調査を実施した。本研究は聖マリアンナ医科大学生命倫理委員会で承認を得た（承認 3823 号)。【結果】日本では 325 人、米国では 46 人の医師の回答結果を分析した。7-9 歳、10-14 歳、15-17 歳の患者に対して、日本ではそれぞれ 80.5%、91.7%、92.1%の医師ががんの診断を直接伝えていた。一方、米国では年齢に関係なく 100%の医師が直接伝えていた。さらに、アメリカでは 45%の医師が 7-9 歳の患者に性腺毒性リスクに関して直接話すと回答したのに対し、日本ではわずか 9%であった。また、日本の 90%以上の医師が性腺毒性リスクを説明する際に使用可能な資材を必要としていると回答した。そこで、まず幼少期向け(A)と思春期向けの二つの教育動画を開発した。医療従事者による動画の実地臨床での適性評価では、思春期向けは 89%で同意であったが、幼少期向け(A)では、「比喩表現が多くわかりづらい」、「がん治療をすることが敵に見えてしまう可能性がある」などの理由から 36%の同意にとどまった。そのため、幼少期向けを改訂し(B)を開発した。その再評価では 85%が同意し、改善が示された。【結論と評価】本邦では、小児・思春期がん患者に対して妊孕性に関する情報提供が敬遠されている実態が明らかとなった。本研究では、さらに、がん治療前の妊孕性温存療法の情報提供資材を開発することにより、小児・思春期がん患者の治療後 QOL 向上に向けた情報提供における全国均てん化への第一歩が示され、価値ある研究といえた。

［審査概要］　審査は主査、副査 2 名と 1 名の陪席者にて行われた。動画の供覧を含む約 30 分間の発表は理解しやすく洗練された内容であった。質疑応答では、アンケート調査方法の妥当性、背景としての日米ガイドライン整備の実状、動画作成の工夫などが討議され、概ね丁寧な回答があった。今後の臨床への応用やその意義について意欲を持って語った。

最 終 試 験 結 果 の 要 旨

［研究能力・専門的学識・外国語（英語）試験等の評価］　本研究ならびに関連領域に関しての専門的知識は十分で研究への貢献度も高く、研究遂行能力も評価された。審査には真摯な態度で、礼儀正しく、研究に対する熱意が感じられた。英語読解力は引用英文文献の一編を指定し、その場での和訳を行い、十分な読解力があると判断した。以上より、申請者の岩端由里子君は学位授与に値すると判断された。